



出前講座報告書

平成30年10月19日 いわき市保健所

実践で使えるデータ分析の知識とスキル ー データ解釈重視編 ー

講義・演習の様子

講義では、データセットの作り方（コード表の作成を含む）、代表値の特徴、図表の使い分け、クロス集計の読み方について学びました。演習では、実際に事例問題をもとにOpenEpiを用いて、カイ2乗検定などを行いました。

	実施内容	確認事項
Step1 準備	データの 入力	入力したデータ (ダブルチェック)
Step2 分析	分析	分析の手順
Step3 解釈	結果解釈・ 提示	P値の解釈、 グラフの選択等

▲重要：データ分析のステップ
(講義資料にもとに作成)

～講師紹介～



福島県立医科大学
総合科学教育研究センター
後藤あや

山形大学医学部卒、ハーバード大学公衆衛生大学大学院において公衆衛生修士（MPH）を取得後、山形大学大学院において医学博士を取得。ポピュレーションカウンシル・ベトナム支部、福島県立医科大学公衆衛生学講座、途中、ハーバード公衆衛生大学院でのフェローを経て現職。ベトナムでは疫学研修を医師会の医師生涯教育認定研修に組み入れて継続しており、福島県では家族計画や育児支援に関する疫学研究を地域の保健師と協働して行い、最近ではランカスター大学と共同で学童期の子どもを対象に参加型社会学研究を展開している。



福島県立医科大学
災害医療総合学習センター
副センター長 熊谷敦史

外科医。長崎大学にて外科診療、放射線発がんの研究、国内外の原爆被爆者への医療、旧核実験場周辺地域住民の保健医療支援、緊急被ばく医療の教育活動に関わったのち、東日本大震災直後に長崎大学先遣隊リーダーとして福島入りし、緊急被ばく医療対応および体制整備に従事。現在は福島県立医科大学での緊急被ばく医療対応に加え、学生、医療者への被ばく医療に関する教育や、地域自治体への支援、住民の方々との個別相談、座談会、講演会などを通して、福島の今を住民と見つけ、一人ひとりの将来のための取り組みを進めている。

グループワークの様子

グループワークでは、育児中の母親のうつ傾向、放射線災害に関する事例問題を分析し、全体で共有しました。手元にあるデータを分析し、その結果が何を意味しているのか、保健活動にどう生かせるかなども考えることが重要であることを学びました。



▲グループワークで成果を共有しました。

*** アンケート集計結果** 参加者は22名、アンケート回収は22名でした。

評価項目	そう思う ¹⁾
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	95%
時間配分は適切だった	100%
進行は適切だった	100%
講義について	
講義内容が理解できた	86%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	91%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	86%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	55%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	45%

* 参加者の声 * (一部抜粋)

「データを分析することで見えてくるものがあり、それを保健活動に活かしていけると感じました。ありがとうございました。」

* 復習ポイント *

- データの作り方
- データの示し方

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

手元にある一次資料と二次資料をもとに健康課題の分析を行いました。日々の保健活動の中で最近このような相談が多いなど感じていた疑問を集計し、分析することで単なる疑問ではなく、根拠をもとに健康課題を示すことができる可能性があります。私も分析して解釈して、結果を示すのは時間がかかりますが、成果がかたちになると嬉しいです。これからも習得した知識を活用したいと思います。
(吉田)